

中層・低層ビル^{※1}対応 被災度判定支援システム VissQ-Mid(ビスキューミッド)を発売

白山工業株式会社(本社:東京都府中市、代表取締役社長:吉田稔 <http://www.hakusan.co.jp/>)は、VissQ-Mid(ビスキューミッド)を2016年6月30日に発売いたします。VissQ-Midは、建物の地震防災システムVissQ^{※2}シリーズの中層・低層ビルに対応した新製品で、地震発生時に人と建物の安全・安心をサポートするシステムです。

中層・低層ビルにおいて、地震による建物の揺れを計測し、安全性をわかりやすく3段階で表示します。施設管理者や利用者は的確な情報を得られるため、建物の継続使用・事業継続・避難要否などの判断が素早く行えます。

【主な特長】

■中層・低層ビルの被災度判定支援

地震計を建物の1Fと最上階に設置し、それぞれのデータから建物構造の被災度を判定します。この被災度は大きな地震の際に建物に留まるか避難すべきかの判断に役立ちます。(図1参照)

■被災状況に応じたメッセージを自動表示

地震検知時^{※3}は、表示器に被災状況に応じたメッセージと震度情報を警告音とともに自動表示します。(図2参照)

■管理者が不在でも有効な情報を提供

表示器を共用スペースに置けば、管理者不在時でもビル内の人たちに建物の安全情報の提供や避難指示が可能です。(表示器設置イメージ参照)

表示器設置イメージ



図1

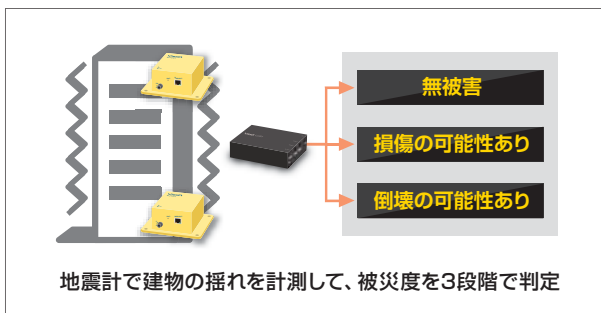


図2

【メッセージの一例】

安全情報を提供する時 **この建物は安全です**

避難指示が必要な時 **避難してください**

地震時はメッセージや震度を警告音と連携させて伝えます

【価格】300万円(税抜)～

【販売目標】初年度300棟

※1 建物の高さ45m以下が目安ですが、建物の構造によって対応できる高さは異なります。

※2 ビスキュー: Visual Sensor System for Quakes

※3 平常時は、日付と時刻を表示します。